

【只見町】

2019年度 ユネスコエコパーク関連事業

2019年度 第2回「只見こども藝術計画」を実施！

2019（令和元）年10月17日（木）、第2回「只見こども藝術計画」が実施されました。講師には、前回に引き続きアーティストの岩田とも子さんをお招きし、朝日地区放課後こども教室の子どもたち8名（小学1-2年生）を対象に、「ブナの森の道具屋さん」をテーマにしたワークショップが行われました。

ワークショップの開始に先立ち、前回訪れた「下福井のブナ林」の写真などを用いて、子どもたちにどんな事があったか、どんな物があったかを思い出してもらいました。岩田さんが子どもたちに3種類の葉っぱを見せて、“ブナの葉はどれでしょう？”と質問すると、子どもたちは“これっ！”と指差して即答、全員正解だったのはスタッフの大人たちも驚きでした。また、今年のワークショップで只見地区の子どもたちが訪れた榎戸のブナ林で見られた植物と下福井のブナ林で見られた植物を比較し、森を構成する植物も場所によって違う事を理解してもらいました。

今回のワークショップのメインは創作です。「ブナの森の道具屋さん」、つまり、子どもたちにはブナの森にいる生き物が使うかもしれない道具を想像し、それを作り、販売する道具屋さんになってもらいます。今回は、道具を作るところまでを子どもたちと行いました。前回、子どもたちが森で採集してきた樹の葉や実などの自然物を、岩田さんがカメラで写真に撮り、それら自然物を画像データとし、紙に印刷して準備しておきます。子どもたちにはこの自然物が印刷された紙を好きなようにハサミで切って、のりで台紙に貼付けて道具を完成させてもらいます。道具が完成したら、道具の名前、どんな生き物が道具を使うのか、道具の材料となったものの名前、道具の使い方、特徴などを書き出してもらいます。最後に、作った道具は生き物に渡す（売る）わけなのですが、その対価として生き物から何がもらいたいかもを考えてもらいます。

子どもたちは、好きな自然物（印刷）を選び、器用にハサミを使い、自然物の形、色、模様などを上手に使って作品を作っていました。溢れるアイディアで、いくつも作品を作る子もいました。道具そのものだけでなく、その道具がどんな風に、誰が使うのか、また、対価として何を求めるのか、子どもたちの自由な発想に大人たちは驚くばかりでした。さあ、どんな作品が出来上がったのでしょうか。

12月16日（月）のワークショップは、ただみ・ブナと川のミュージアムで開催されます。子どもたちと一緒に、今回創作してもらった作品（道具）を展示する（「ブナの森の道具屋さん」をオープンする）予定です。

（活動風景は次のページより）



紙芝居風に前回の出来事を説明する岩田さん。



好きな自然物（印刷）を選んで創作の開始。



創作開始！



葉の形を観察しながら、ハサミで切り取ります。



真剣です。



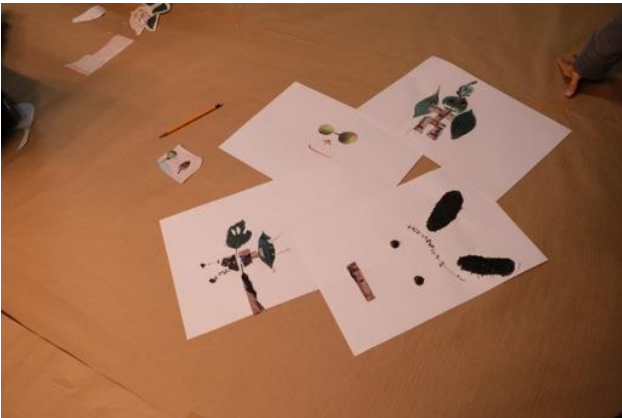
ヤマモミジの繊細な形もきれいに切り取っています。



切ったものを台紙に貼付けて、森の生き物が使う道具を作ります。



道具の説明も書きます。(左の黄色の用紙)



これは何を作ったのでしょうか。道具の説明が楽しみです。



値段も考えます。ただし、森の生き物はお金を持っていないのでそれに代わるものを考えます。



楽しいワークショップになりました。